

日本協会 ニュース

第 10 号



japan

building global friendship

～ CISV 日本協会新旧会長ご挨拶～



渥美 伊都子 前会長

2017 年度もたくさんの会員の皆様に国際プログラムおよび国内活動にご参加いただきありがとうございました。早いもので日本における CISV 活動も今年で 60 年がたちました。11 歳を対象としたビレッジから始まり、今では様々な年齢に対応した 7 つの国際プログラムに活動の幅が広がり、日本協会も公益社団法人になりました。この間、ずっと活動を続けてこられたのも、会員の皆様のボランティア活動のお陰であり心より感謝申し上げます。10 月に行われました記念式典と祝賀会では皆様とご一緒に 60 周年を祝うことができ、懐かしいメンバーとの再会、またご家族でお越しいただいた方もあり、CISV ならではの賑やかでアットホームなイベントとなりました。実行委員会の皆さまにはお骨折りいただき、ありがとうございました。二世世代三世代で関わって CISV の輪が広がっていくご様子を拝見し、大変嬉しくそして頼もしく思いました。

無事に 60 周年も終わりましたので、私もこの大きな節目で退任し、CISV の運営を次の世代にお願いしたいと思います。これからも CISV での貴重な経験を基に広く世界に目を向け様々な分野で活躍くださる方が増えていくことを切に願っております。人と人とのつながりによって世界平和を築いていく CISV 精神がこれからも多くの方に受け継がれますよう、会員の皆様からのご支援をお願い申し上げます。



岩間 陽一郎 新会長

CISV の活動は急速にグローバル化が進む現代社会にあって子供達が豊かな国際感覚を持って将来活躍するための土台作りの場として一つの理想形を示していると思います。いかなる時代にあっても、いかなる分野であってもまたどのような形であっても海外の人々と交流を深め相互理解を実現することの重要性は変わらないと思います。CISV はまさにこれを実現する場として我が国において 60 年の実績を有する草分け的存在であると言って良いと思います。CISV は熱意をもって参画される方々のボランティア精神に支えられて今日があると思います。これからもそうであるべきであり、そうありたいと思う次第です。

今回図らずも渥美会長の後任として努めさせていただくこととなりましたが、CISV を取り巻く環境の変化、時代の進展は目覚ましいものがあることも考慮に入れつつ次世代へのバトンタッチを円滑に実現することを心がけて皆様のご支援の元、微力を尽くしたいと考える次第であります。CISV のますますの発展に向け皆様と力を合わせて参りましょう。どうぞよろしくお願い申し上げます。最後に今日まで長年にわたりご指導いただいた渥美会長の物心両面にわたるご支援に心より感謝申し上げます。有難うございました。

<岩間 陽一郎新会長略歴>

東京海上火災保険専務取締役、東京海上アセットマネジメント株式会社社長、日本投資顧問業協会会長等を経て、現在は資産運用会社のアドバイザー。1996 年次男悦郎が IC(メキシコ)、1999 年三男祥太が IC(タイ)に参加。2011 年より CISV 日本協会理事。

2017 年度 日本開催プログラム実施報告

関東ステップアップ

関東支部大会委員長 福德光師



8月6日～28日までの間、長野で関東支部の日本大会を開催しました。ディレクターのナオ、スタッフのジュン、ユキ、マッキー、タク、リョウ、リク、計7名でSUの運営を行ってくれました。参加者の笑顔、ホストファミリーをはじめ多くの方にお手伝いをいただきましたが、皆さん口々に良かったと仰ってください、充実したプログラムであったと感じています。協力いただいた中でいくつか、印象に残ったことを紹介します。

ユースキャンプの前日に台風5号が日本に上陸しました。予報では丁度、キャンプの日にはキャンプサイトを直撃することになっていました。前夜は観測史上最多の雨量が高速道路は通行止め、JRを運休にしまいました。キャンプサイトの無事を心配しつつ、キャンプはできない可能性があるため、ホストファミリーの皆様にご相談をしたところ、ホストファミリーの皆さんもご都合ある中、台風でキャンプできない場合はもう一泊どうぞとおっしゃって頂きました。翌朝、多くの方の願いが通じたのか、奇跡的に台風はそれて出発予定時間に間に合うように高速道路も復旧し、無事ユースは青空のもと、キャンプできました。

今年は重いアレルギー、グルテンフリーの対応が必要なユースが何名かいました。3週間の食事の準備、ホストファミリーにも特別な配慮が必要でした。当初どうなることかと思っておりましたが、ホームステイ担当のみなさん、大会委員会のお医者様の西本先生が中心となって、色々アイデアをだし、ホストファミリー、スタッフに料理の方法、アレルギーの対応等、一つ一つ時間をとって理解を深めて下さいました。

今年もどこかで、子供たちの「キャンプ楽しかったよ」という声と一緒に、「お母さんもホストファミリーをやって楽しかった」「お父さんもキャンプサイトで手伝ったよ」と素敵な会話がはずんだと思います。

東海ユース ミーティング

ディレクター 溝口遥子



今回のユースミーティングは、絵本が教えてくれる「優しいきもち」や「大事なこと」は、大人の私たちにも心に響くものがあると思ひ、「本」をコンセプトにしようと思ひました。

テーマは「ストーリー」で、絵本を通して今年のCISVのテーマである「人権」にアプローチすること。「人権」や「男女共同参画」とか、なんか聞いたことあるけど小難しい。今後の生活にも影響すると分かっているけどなんか堅苦しい。その堅苦しさを感じさせない方法をCISVの場で、絵本からヒントを得ながら考えることができればと思ひました。そして、このユースミーティングの8日間から始めて、自分の「ストーリー」を語っていけるようにという想ひも込めました。

また、ユースのプランニングにはアクティビティテンプレートを使い、「協力」や「人権」にアプローチするアクティビティのプランニングを1グループ45分間×2回行いました。「世界人権宣言」の、「平等の権利」を始め30項目について、スキットなどを取り入れながら楽しく学ぶ時間も設けることができました。各デリゲーションタイムでのエバリュエーションにより、リーダーたちはユースの理解を助け、またはユースと一緒に考えてくれました。様々な角度から人権について考えることができたと思ひます。

ユースもリーダーもスタッフも用意して実施してくれたこと、率先的に動いてくれたこと、みんなの動きすべてが、みんなの居心地の良さを生みました。みんなが精一杯目の前のことに取り組んだ時間が合わさって、多くの支援や協力が合わさって、この8日間が出来上がりました。関わってくださったすべての皆さんの一つ一つの想ひに本当に感謝しています。

8日間は終了しましたが、これからもユースたちの今後の活躍を応援でき、またお互いに成長しあえる“人たち”でいたいと思ひます。本当にありがとうございました。

関西ビレッジ

大会委員長 山下行理



自分が昔受けた恩恵を今回の子供達に返そう。それが昔僕たちの世話をしてくれた人達への恩返しになるに違いない。大会委員長としての自分のコンセプトは感謝を繋げることでした。サイトが決まったのは昨年6月。僕と同時代にリーダーをされた安達譲先生が園長を務められている幼稚園をサイトとしてお借りしたい、僕の3年越しの申し入れに、先生が熟考の末出してくれた答えは「是非使って頂ければ」でした。

そして、もう一つ大切なピースはスタッフ。しかし、4週間通して入れるスタッフが中々現れない。検討の末、主婦で子持ちではありますが経験豊富な塩谷はづきさんのスタッフ起用を決定。安達先生にご協力頂き、日中はお子様を園に預けてスタッフ業、夜は母親業（園に滞在）という新しい形に挑戦しました。

そんな新しいサイトとスタッフの形でのVLでしたが、参加者達はとても楽しんでくれたようです。中央の人工芝のグラウンドではキャンプイン直後まだ自己紹介もしていないのに子供達がサッカーを始めましたし、訪れた誰もが口を揃えてサイトの素晴らしさを讃えていました。スタッフと母親の両立も当初懸念された問題は起こらず、本人は最後までやり遂げてくれました。幼稚園だから出来たのでしょうか、ダイバシティの思想で人材難を克服したのはCISVらしい事例ではないでしょうか。

そして何より支部のサポートは、参加者からことある毎に感謝の気持ちを頂くくらい素晴らしいものでした。食事が美味しい、民泊が楽しかった、差入れが有難い等々。オープンデーには会員のみならずOBや他支部から、また近隣の中学生や幼稚園の保護者の方など300名を超える方に来て頂き大盛況でした。挨拶に立ったディレクターのボビットが感極まるくらいその場の空気はCISV LOVEや感謝の気持ちに満ち溢れていました。幼稚園の空に掲げられたCISVフラッグを感慨深げに眺めていた安達先生も、そして連日来てくれた支部の皆さんも同じ気持ちで今回の子供達の笑顔の為に協力してくれたのだと思っています。

子供達は何を感じ取ってくれたのでしょうか？支部宛での感謝状には”I like Kansai chapter.”という言葉が記されています。彼らがここでの体験を踏まえて、将来支える側に回ってくれたらこれほど嬉しいことはありません。

九州ユース ミーティング

大会委員長 皆川達也



今年、8月7日から14日までの8日間、福岡市内2泊3日～久留米市内5泊6日の2か所を通じて九州では6回目の2017ユースミーティング日本大会～Gorenジャー～を開催しました。参加国はベトナム、スペイン、ポーランド、中国、日本の5か国です。今回の大会テーマは「人権」です。

大会前日に行った希望チームのホームステイを無事に終え、大会当日は全員元気にキャンプインできました。初日は初めて使用する施設の説明および注意事項があり、大会スタッフと参加国チームリーダー、子供たちと仲良くなるためのアクトを行いました。その施設ではみんなの顔と名前が早くわかるようにアクトが主で、他には工作室で自分たちのYM日本大会Tシャツを自分自身で好きな色をいくつも使って染めました。

3日目は大型バスを使ってみんなで遠足しながら施設の移動を行いました。雨にも関わらず、荷物運びで大会委員会のみなさんありがとうございました。4日目から施設が変わって大会が始まりました。場所が変わっても大会スタッフ、リーダー、子供たちはしっかり元気です。

6日目は施設から車で5分ぐらいの市役所のホールをお借りしてオープンデーを開催しました。事前宣伝効果で多くの方がご来場していただきました。参加した子供たちの自国紹介はいろいろ工夫されて楽しく見て、踊って参加者全員で楽しい時間を過ごすことができました。

そして、最終日です。大会期間中は大きな事故やけががなく、無事に参加国チームを送り出すことができました。大会スタッフ、大会委員会のみなさん、ご協力・ご支援いただいたみなさん、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

モザイク部会

モザイク部会長 坂田綾



モザイク部会は、国内の社会問題をテーマにした平和教育を、各支部で行っています。テーマやカリキュラムが CISV 理念に基づき、体験的・教育的であると CISV 国際に認められたプロジェクトは、正式な CISV プログラムとして運営することが出来ます。

2011 年被災地支援事業としてスタートした STEP (Smile Tohoku Empowerment Project) は、関東支部モザイク委員会が運営する、CISV 国際に承認されたプログラムです。遊び場が少なくなった子どもたちに、遊ぶ機会と場所を提供する目的で 3 年間活動しましたが、子ども会などの運営が現地主導で可能となったため、2014 年からはテーマを変更し、被災地ツアーを毎年開催しています。ツアーでは現地の方や復興事業に関わる方との交流やボランティア活動を中心に行っています。2017 年 11 月 25 日～26 日、2 回目となるツアーを開催しました。今回印象的だったのは、震災当時小学生や中学生だった数人の若者が、自分の言葉で、震災時の体験や今の気持ちを語ってくれたことです。子どものために始めた STEP が、数年後思わぬ形で成長した子どもたちの語る場や考える場になったことは、多くのスタッフにとって感慨深い出来事だったと思います。被災地での継続的なボランティアや学びを支援していただけていることに、心より感謝申し上げます。

各支部モザイク委員会は、高校生・大学生に向けたリーダー教育 (東海支部・九州支部)、フードバンク (関西支部)、子どものための音楽会 (関東支部) など、様々な活動を行っています。これからも多くの方に参加いただける、楽しく実りある活動を継続していきます。今後ともご協力の程、宜しくお願い致します。



ジュニア部会

ジュニア部会長 金谷玲子



私たちジュニア部会は高校生以上の CISVer で構成されており、各方面で JB 活動を行わせて頂いております。2017 年度の JB 活動としては、まず国際行事として 3 月上旬に京都で TEA を開催しました。2017 年度 Sr. NJR の山田野乃 (関西支部) を中心にアジア各国から参加者を募り 4 泊 5 日間ワークショップを中心に各国の文化紹介やエクスカージョンなども行いました。

また、国内 4 支部合同宿泊行事も開催し、3 月下旬に関東支部にてウィンタースクールを、5 月の GW には九州支部にてユースセミナーを、8 月中旬に関西支部にてサマースクールを、8 月下旬にジュニア部会主催の NJBC&W を開催致しました。ウィンタースクール、サマースクールはビレッジを 4 泊 5 日に短縮したような形で、それぞれテーマを設定し、キッズも交えてセミナーを行ったりアクティビティを行いました。1 年、半年毎にしか会えないキッズもおおり、キッズの成長や楽しむ姿を見ることができます。ユースセミナーではテーマに沿ってスタッフがセッションを用意し、セッション内外で多くのディスカッションを行いました。参加者が高校生以上ということもありとても有意義な内容の濃いディスカッションを行えました。NJBC&W では高校生以上の JB が参加し、ジュニア部会構成員によるセッションや、次年度つまり 2018 年度の JB JAPAN についてのディスカッション、部会長選挙や Sr. NJR 選挙、2017 年度の振り返り等を行いました。

そのほかにもジュニア部会によるグッズ制作事業にてオリジナルトートバッグやフェイスタオルを販売させて頂き、多くの方にご購入頂きました。ありがとうございました。

また各支部にて春のハイキング、初夏のハイキング、秋のハイキングを開催し、新旧の会員様の交流や派遣のないキッズが気軽に参加出来る場を設けさせて頂きました。また、各支部毎に約 2 ヶ月に 1 回ほど会報誌の発行もさせて頂き、JB による活動報告も随時させて頂きました。これらの行事は 2018 年度も引き続き行わせていただく予定です。是非お気軽にご参加下さい。

最後になりましたが、JB によるこれらの活動は日本協会の皆様、各支部委員会の皆様、また各行事の参加者の保護者の皆様など多くの方々のご理解、ご協力があってこそ成り立っております。これからも各事業をより一層良いものにしていき、JB の発展へつなげていきたいと思っております。

CISV Japan の縦と横をつなぐ Anniversary Year 始まる



CISV 日本協会は創立 60 周年を迎え、10 月 21 日（土）に東京で、多くみなさんとお祝いをしました。関東、東海、関西、九州支部ら参加の会員・旧会員に加え、韓国のチュン・シンイル会長をはじめ、インドネシア、エジプト、デンマーク、フィリピン、ベトナム、ルトガル、タイからゲストが駆けつけて下さり、総数およそ 250 名というたいへん盛況なイベントになりました。

当日のプログラムは式典と祝賀会の 2 部構成。式典は渥美伊都子会長の挨拶から始まり、次のようなコンテンツが実施されました（少敬称略）。

- 1960 年代半ばの関東支部事例と現在の Village プログラムの在り方を対比して時代の遷移を視認していくプレゼンテーション『CISV 昔物語』（65 年派遣 栗田真理子）
- 60 年の歩みから各年代パネリストをピックし、時代ごとに異なる CISV 体験を通して学んだことをもとに、現在の課題を共に考えたパネルディスカッション “CISV - How it changed my life?”（50 年代派遣・細田泰、60 年代・中西孝平、70 年代・池内広明、80 年代・池山、90 年代・御手洗瑞子、00 年代・山田野乃、10 年代・熊崎奈緒 / 司会 99 年・五十嵐朝青）

ホールを移しての祝賀会は、250 名の大集合写真撮影から始まり、JB によるオープニング・エナジャイザー、海外からのゲストの紹介ご挨拶、記念ギフトの贈呈もありました。岩崎統子副会長による乾杯の後は、自由歓談の間に動画を上映し、各支部 2017 年度日本大会活動紹介（カッコ内は発表者）。

- 関東支部 Hanabi / Step Up（熊崎奈緒 / ディレクター）
 - 関西支部 PPAP (Positive People Arigato Power) / Village（山下行理 / 大会委員長）
 - 東海支部 Story / Youth Meeting（さんひょん / スタッフ）
 - 九州支部 Go Ranger / Youth Meeting（河合真理 / 93 年派遣）
- さらに貴重なムービーの公開も。
- 2016 年 APRW / JASPARC ” Laugh and Peace”（堀江陽介 / 04 年派遣）
 - 1982 年に関西支部が作成した懐かしい CISV プロモーションムービー（山之内妙子 / 73 年派遣）

動画上映に続いて、これまで CISV Japan を支えて下さった各支部の歴代支部長・大会委員長へ感謝のセレモニー。会長から 35 人の対者一人ずつへ感謝状が授与されました。

その後、会場を少し暗くして JB ハンドルによるララバイタイム。50 年代から現在まで、CISV のキャンプでよく歌われた曲（My Bonni Leaving on a jet plane など 5 曲）をみんなで歌いました。

小宮英明実行委員長による閉会挨拶の後、全員が手を繋いで輪になり北欧 3 ヶ国語による食後の歌 “Kiitos” で声を合わせ、CISV ソングを歌って大団円。

60 周年記念ロゴ入りポロシャツの販売や、ハッシュタグを付けて SNS で世界へ発信するため 60 周年インスタ風パネルを使っのフォッシュューティングもあり、会場は終始にぎやかで Happy な雰囲気に包まれていました。普段はなかなか顔を合わせることができない異なるつの支部間の横のつながりと、年代という縦のつながりを一同に会して交差するイベントになったのでは？ と思います。

これを機に、2018 年度は Anniversary Year として、CISV Japan のプロモーションムービーを制作する記念事業など、70 周年へ向け新しいデケイドへ、縦横みなさんの力が結び懸かっていくことを祈っています。（池内広明 CISV 日本協会 60 周年記念事業実行委員会）

特別インタビュー チュン・シンイル (CISV 韓国名誉会長)



編集部とチュンさん（写真中央）

＜チュン・シンイルさんの略歴＞

CISV 韓国名誉会長。1968年にCISV韓国設立、最初の韓国デリゲーション派遣に尽力。以来、現在に至るまでCISV韓国の発展のために精力的に活動を続ける。

・チュンさんとCISVの関わりはどのように始まりましたか。

私は、初代CISV韓国の会長として、1968年よりCISVに関わっております。ですので、私とCISVの関係は、韓国とCISVの関係とも言えるのかもしれませんが。そしてCISVを韓国に伝えたのはCISV日本の第二代会長を務められていた中曽根康弘氏でした。私は当時韓国の政治家秘書をしていましたが、中曽根氏よりCISVのことを聞いたその政治家の方から回って私にCISV韓国設立の話がきたのです。当時私は23歳でした。

・これまでのCISV活動で大変だったことは何でしょうか。

海外渡航自由化がされていなかった設立当初ですね。初めて韓国デリゲーションを海外に送り出したのは、1968年の関西ビレッジとフィリピンビレッジでした。当時はパスポートを取得するだけでも、様々な役所に申請を出す必要がありました。また、我々韓国人が海外に出るためには海外から招聘されるという形が必要だったため、私は事前に日本を訪れ様々な支援を依頼しました。当時の対応してくださった岩元さんにはとても感謝しております。

・長年CISVに関わられている、チュンさんにとってCISVの魅力は何でしょうか。

韓国の若者がCISVを通して幼い頃から世界に出て、経験や知見を広げることは、将来の韓国のためになると考えたからです。実際にCISVを体験した人のなかには、現在の韓国社会で活躍している人がとても多いです。

CISV 韓国での次の目標は何でしょうか。

CISVの専用施設を建設したいと思っております。すでにソウル市内から車で1時間以内のところにより物件があり、目星をつけています。あとは資金集めです。来年でちょうどCISV 韓国50周年になるのでその際に、募金したいと思います。

・CISV 日本へのメッセージをお願いします。

CISV 韓国は設立時より連続17年もの間、日本のCISVキャンプにデリゲーションの派遣をしました。最近では日本への派遣がないこともあり残念です。今後は毎年派遣できたらと思います。



1968年代表団 結団



1968年 日本ビレッジ派遣韓国のデリゲーション

—CISV 日本協会 WEB サイトリニューアル—

今年度はCISVのウェブサイトのリニューアル致しました。スマホなどでも読みやすいようにデザインを変えたり、内容を整理したりと、これまで1年がかりでリニューアルを進めてきました。ご協力頂きました皆様、ありがとうございました。新サイトURL → cisv.jp

日本協会ニュース第10号 2017年12月
編集責任者：鈴木 勇貴 | 編集レイアウト：西 恵里奈
発行：公益社団法人CISV日本協会 (cisv.jp)
〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-28-218
Tel：03-5261-8560 | Fax：03-5261-8540
Email：japan@cisv.org
Facebook：www.facebook.com/cisvjapan